

發行願

一 題號

いらつめ

一 記載ノ種目

家事經濟學、美術、
及女子教育、關ノ事項。

一 印刷ノ定期

毎月壹回

一 發行所

本郷區森川町壹番地
成美社

一 印刷所

神田區五軒町十八番地
小笠原活版所

一 持主兼印刷人

本郷區湯嶋切通坂町三番地
寄留新潟縣士族
新保磐石次
安政三年九月二日生
本月三十年十月

一 編輯人

本郷區森川町壹番地、和甲吉方
寄留大坂府平民
正木政吉
文久三年十月廿六日生
本月二十四年九月

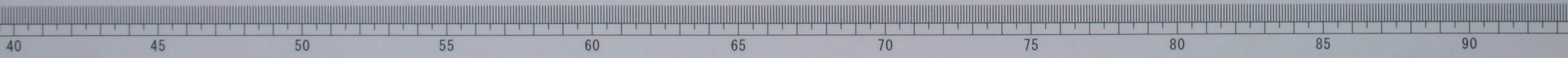
右新聞條例ヲ遵守シ發行致度候

間御聞届被下度此段奉願矣也

明治二十年六月

持主
新保磐石次

内務大臣山縣有朋殿



心より御印判入事候由

左印正納付西序所控事也

一 明治二十年一月二十日あり御印判入致因安之助

神田区駿河町南町四丁目八番地
寺田大寺孫平氏

一 明治二十年八月五日あり御印判入致因安之助

明治二十年一月及至
二十年七月

有之直事更政同此証書候事也

明治二十年
七月

妻一人

武田安之助



警備總監子爵三島道庸殿

心印寺造書更由

本寺西片所於地

一 明治二十年十月二十日所創人 武田安之助

神田區藤河志南甲寅所心齋院
寺百大寺經平武

一 明治二十年八月十五日所創人 佐野忠吉

明治二十年一月生
二十七年七月

有之由書更由向此信傳由也

明治二十年
七月

費力人 武田安之助



敬復總領事官
三島通庸殿

いづれの讓渡願

いづれの之儀是正武田安之助費行人
之般山田武太郎行高新同我條例遵
守し費り既後同又一讓渡之儀以同
由はう身付居在也

明治二十
七年七月

東京府本郷区約込西片町於當地
奇百
讓渡人 武田安之助



東京府山田正後河臺治本所
於六歩地居在之族

讓渡人

山田武太郎



明治二十七年七月
二十九年七月

中務大臣伯爵山縣有朋殿

いづつめ讓渡歟

いづつめ之儀是也武田安之助あり人
之知多坂山田武太郎存る新岡武傳
道吉となり武田同月一人讓渡候
同月仲おとし交ひ候也

東京府本郷正約西片町松本
寄る

讓渡人 武田安之助

明治二十五年
七月二十日

東京府津田正驛向亮松本町
松本六番地居住士族

讓渡人 山田武太郎

明治元年七月廿
二十五年七月

内務大臣伯爵山縣有朋殿

編輯人変更任

明治二十一年七月廿一日書記局往復課
三四七號第二受付印

本館在東京西區新橋地
編輯人 橋本三郎

明治二十一年八月廿五日
新編編輯人 山田武太郎

神田區新橋町六丁目
明治二十一年七月廿一日

古事通變更致向此任
山田武太郎

明治二十一年七月廿一日
發行人 武田安之助



力多夫
敬祖德海
島直有殿

くらゐの編輯人変更任

一 明治三十四年四月南なり方抄号の編輯人 榎葉三郎
本脚區館に西片所抄号地

一 明治三十四年八月五日なり方抄号の編輯人 山田武吉郎
沖田區館の是館本所抄号地
二十一年三月廿日

有之由「変更抄」向此任即由申也

明治三十四年 七月三日 茂の久 武田安之助



敬言 視徳子 舟山 縣方 兩殿

山田武右衛門

明治三十二年六月八日
三葉四三三

山田武右衛門

山田武右衛門

山田武右衛門

明治三十二年七月廿八日
本月三十一日

山田武右衛門

明治三十二年
五月廿八日

山田武右衛門



内務大臣伯島村山縣有朋殿